

新しい総合計画策定のための

市民まちづくり研究会

- まちづくり提案書 -

目次

- ◆はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- ◆市民まちづくり研究会からの提案・・・・・・・・・・・・・・ 2
 - A 人を大切にするまちづくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
 - B 自慢できるわがまち小牧・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
 - C 地域力の活性化で安全・安心と環境を守るまちづくり・・ 9
 - D 文化・芸術の薫るまちづくり・・・・・・・・・・・・・・ 13
- ◆“市民まちづくり研究会の提案”の実現に向けて・・・・・・・・ 16
- ◆参考資料（開催経過）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

平成20年1月

◆ はじめに・・・

この“市民まちづくり研究会”は、小牧市の新しいまちづくりの指針となる「第6次小牧市総合計画」の策定にあたり、市民の意見や想いを計画に反映するとともに、市民と市職員が一緒になって、これからのまちづくりについて考える場として立ち上げられました。

メンバーは、20代から80代までの幅広い年齢層にわたり、学生や会社員、主婦、NPO やボランティアで活動する人、市職員など、職業も多種多様であり、性別や年齢、職業などにかかわらず、小牧市のまちづくりに関わりたいという熱い想いを持った41名が集まりました。

平成19年8月に第1回目の会議を開催して以来、テーマごとに4つのグループに分かれて、『これからの小牧市はこんなまちになったらいいなあ』、『小牧市の良いところ、悪いところって何だろう』、『良いところを活かしたり、悪いところを改善して、思い描くまちを実現するために、市民と行政が共に力を合わせて取り組むべきことは何だろう』というように、全8回にわたって話し合いを重ね、このまちづくり提案書をまとめました。

この提案書は、単に提案としてとどめるのではなく、「第6次小牧市総合計画」へ反映され、今後10年間のまちづくりの中で市民と行政と一緒に協力しながら、できることから順に実現していきたいと考えています。

平成20年1月 市民まちづくり研究会メンバー

◆ 市民まちづくり研究会からの提案…

わたしたち“市民まちづくり研究会”は、まちづくりのテーマごとに4つのグループに分かれて話し合い、9つのまちづくり提案をまとめました。

A グループ

【テーマ】人を大切にするまちづくり

【課題】

- ・ 障がい者、高齢者への理解
- ・ 地域の支え合い（3あい事業等）
- ・ 教育の一貫性 など

【プロジェクト】

- ①障がい者・高齢者をひとりぼっちにしないプロジェクト
- ②次世代育成プロジェクト

B グループ

【テーマ】自慢できるわがまち小牧

【課題】

- ・ 歴史や街並みを活かした街づくり
- ・ 地産地消
- ・ 生活道路の新設・拡幅、歩道車道分離
- ・ バスの運行経路見直し・増設、東西路線の新設 など

【プロジェクト】

- ③中心市街地活性化プロジェクト
- ④交通問題改善プロジェクト

C グループ

【テーマ】地域力の活性化で安全・安心と環境を守るまちづくり

【課題】

- ・ 自主防災活動の啓発
- ・ 市民の防犯組織拡充
- ・ 交通安全
- ・ 町内会活発化
- ・ ゴミの分別の更なる充実
- ・ 自然の保全、農業の活性化 など

【プロジェクト】

- ⑤だれもが安心して暮らせるまちづくりプロジェクト
- ⑥地域の立て直しプロジェクト
- ⑦環境を守る美しいまちづくりプロジェクト

D グループ

【テーマ】文化・芸術の薫るまちづくり

【課題】

- ・ 自然や史跡の活用
- ・ 施設の有効利用
- ・ 文化事業の浸透
- ・ 多文化共生に対する意識の高揚 など

【プロジェクト】

- ⑧それぞれの文化 さまざまな芸術を楽しむまちづくりプロジェクト
- ⑨「小牧は一つ 地球家族」と皆が思うまちづくりプロジェクト

人を大切にするまちづくり

上田幸恵、大田垣隆、尾関三也、勝川正治、末松雅彦、鈴木敏夫、田中初美、野々川英子、橋本真弓、勝山貴之、川尻卓哉

提案の背景や主旨、想いを文章で記入・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

・・

・・

・・

小牧市の福祉・教育、市民活動等をみると・・・

【良いところ】

(第2回の意見より、プロジェクトに関連するものを中心に抜粋)

-
-
-
-
-
-

【悪いところ】

(第2回の意見より、プロジェクトに関連するものを中心に抜粋)

-
-
-
-
-
-

【課題】

- ・ 障がい者、高齢者への理解
- ・ 地域の支え合い（3あい事業等）
- ・ 教育の一貫性

など

【プロジェクト】

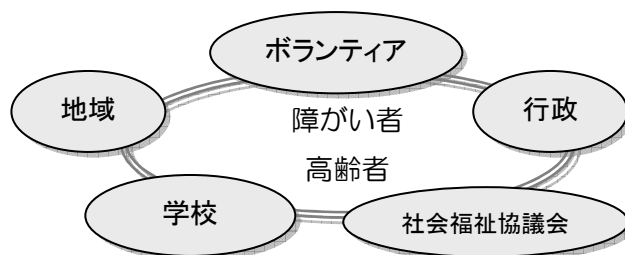
- ①障がい者・高齢者をひとりぼっちにしないプロジェクト
- ②次世代育成プロジェクト

1 障がい者・高齢者をひとりぼっちにしないプロジェクト

<目的>

社会から物理的・精神的に孤立しがちな現状から、制度の改善・充実や、認識を深めることによって、社会の一員としての連帯を強めるため。

<実施体制のイメージ>



●障がい者や高齢者の立場を「知る」

すぐに行えること

内容

- 福祉モニター制度の設立
(ボランティア、専門別、会議を重ねる。必要に応じて専門家を加える。)
- 弱体化したボランティア制度の維持・強化
- 学校での「福祉実践教室」の充実

市民の役割

- ・情報の収集
- ・行政へのアピール

行政の役割

- ・情報の分析
- ・市民への回答

連携

連携

連携

- ・教室に講師として参加

- ・教育委員会と社会福祉協議会の連携で教室を開く

成果

障がい者や高齢者の立場を共有できる
福祉についての理解が深まる

●障がい者や高齢者が動きやすい「環境をつくる」

次の取り組み

内容

- ライフサポーター（地域生活のおたすけマン）
- 会員制・移送サービス

市民の役割

- ・NPO法人（ボランティア募集・教育・コーディネート）
- ・ボランティア参加
- ・NPO法人の運営、運転
- ・ボランティアへの登録

行政の役割

- ・資金の提供
- ・NPO法人への助成
- ・バリアフリーのまちづくり

支援

支援

成果

利用者の安心感と地域の連携の深まり。子育て支援
低廉な料金により気軽に外出できるようになる

●より開かれた社会を目指す

長期的な取り組み

内容

- オンブズマン制度
(行政活動を調査し、市民からの苦情を処理する機関)

市民の役割

- ・研究会を作る

行政の役割

- ・啓発活動を行う

連携

成果

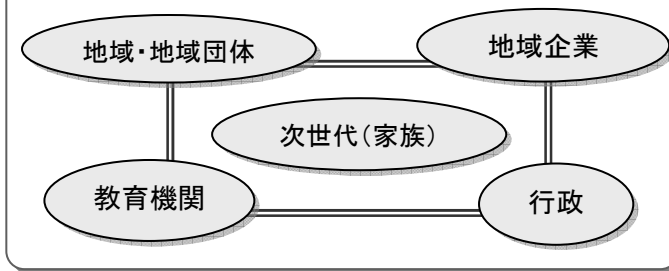
2 次世代育成プロジェクト

<目的>

まちづくりのものは人づくり、人づくりのものは次世代のこころ育て。

発展し続ける小牧の将来にとって次世代の育成は、まちづくりの土台をなすもの。

<実施体制のイメージ>



● 地域と教育現場との連携を強化する

内容

- 地域3あい事業の拡充
- 教育モニター制度（現状・課題を把握し、制度づくりから着手。モニター機能、体制、運用などの検討）
- 小牧版「子ども憲章」の制定

市民の役割

- ・ 教育機関との緊密な連携（幼・小・中）
- ・ 次世代のこころ育てを中心としたプログラムの推進
- ・ 次世代育成に係る教育・保育・地域の実情把握と報告（提言含）
- ・ 家庭・学校・地域・企業など、全市的な育成指針の共有
- ・ いつでも、どこでも、だれもが実践

行政の役割

- ・ 指導者の育成
- ・ 全市への拡充
- ・ 財政支援の強化
- ・ 中学校区ごとの次世代育成モニター設置（公募含）
- ・ 全市的教育施策への反映
- ・ 憲章制定の主導
- ・ 地域リーダーの育成と実践指導

成果

- ・ 次世代のふれあいの場づくり
- ・ 社会教育の充実
- ・ 次世代育成に係る重要な問題の一貫性・均一性・継続性の確保
- ・ 学校間格差、地域格差の是正
- ・ 縦割行政の補完
- ・ 家庭教育力の向上
- ・ 地域力の再生
- ・ 子ども自らの自制心・規範意識の向上

すくすく子育て

● 地域ぐるみの次世代育成

内容

- 次世代育成コミュニティ協議会の設置

市民の役割

- ・ 地域を形成する組織の連携・協働による次世代のこころ育て（教育・保育機関、地域団体、地域企業）

行政の役割

- ・ 指導・助言
- ・ 財政支援

成果

- ・ 地域課題の共有化
- ・ 地域力の再生
- ・ 地域ぐるみの次世代育成の実現

次の取り組み

子ども市民憲章（案）

- 1
- 2
- 3



自慢できるわがまち小牧

井戸田 鎔男、大野英隆、落合弘、斉田一郎、新地恵理奈、長谷川泰洋、松田敏弘、
鵜飼達市、小川尋典

提案の背景や主旨、想いを文章で記入・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

・・

・・

・・

小牧市の中心市街地、交通、道路をみると・・・

【良いところ】

(第2回の意見より、プロジェクトに関連するものを中心に抜粋)

-
-
-
-
-
-

【悪いところ】

(第2回の意見より、プロジェクトに関連するものを中心に抜粋)

-
-
-
-
-
-

【課題】

- ・ 歴史や街並みを活かした街づくり
 - ・ 地産地消
 - ・ 生活道路の新設・拡幅、歩道車道分離
 - ・ バスの運行経路見直し・増設、東西路線の新設
- など

【プロジェクト】

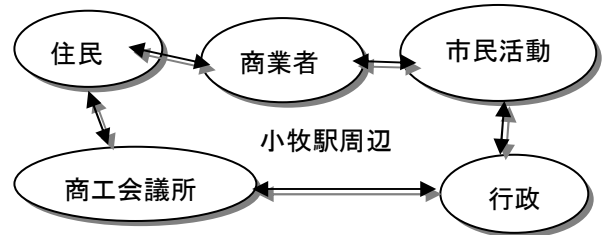
- ③ 中心市街地活性化プロジェクト
- ④ 交通問題改善プロジェクト

3 中心市街地活性化プロジェクト

<目的>

小牧周辺の「まちの魅力」の向上に務め、居住者及び来訪者の増加につなげ、にぎわい創出を図る。

<実施体制のイメージ>



● (プランづくりと意識づけ)

すぐに取り組むこと

内容

- 地産地消の”市”の設営（一六市）
- 魅力ある施設（食べ物街、物販、風呂）
- 文化施設の設置
- 歴史と町並み

市民の役割

文化に親しむ

青空市、イベントの実施と参加

一里塚の意識づけ

行政の役割

歴史の掘り起こし
文化施設の委託

商業施設の委託

ポイントの設置

参加

連携

連携

成果

- 商店への買い物客の増加
- イベントおよび文化交流人口の増加

●手法の検討

次の取り組み

内容

- 駅から小牧山までの線の開発（織田信長をテーマとする）

市民の役割

小牧山の歴史の掘り起こし（織田信長の小牧における業績等の史実）郷土史家との連携

小牧駅から小牧山までの路線の整備計画の策定を市民主導で決定し提案

織田信長をまなぶ歴史講座への参加

行政の役割

郷土史を編纂し史実を全国に告知する。「信長サミット」等の提唱と実施

小牧駅から小牧山まで歴史の順序を案内板にしてつなげる。看板は企業の協賛

大学との連携で論文の作成発表を依頼し、歴史講座の開設と運営

連携

提案

参加

成果

- 市民と行政と大学と企業のそれぞれの強みを出しあいながら、それぞれのメリットを共有することで市民の行政への参加意識の増大、郷土小牧への愛着等々に貢献できる

●人の集まる公的施設の整備・運営

長期的な取り組み

内容

- 市街地再開発関連（特定業務代行方式）による公共施設ビルの建設・設置による活性化の創出

市民の役割

利活用の促進

要望・意見の用件提示

業務時間の延長実施

行政の役割

広報等によるPR活動の援助

運営委員会にて検討・実施

民間団体・高齢者の積極的活用

連携

提案

連携

成果

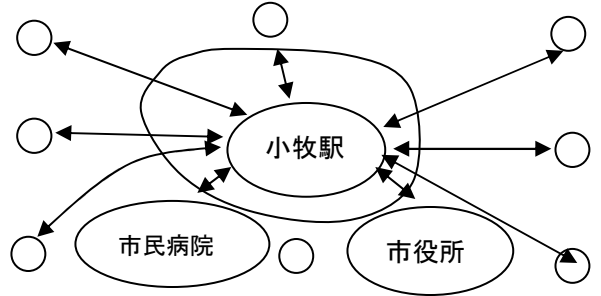
- 新しいシステム導入の図書館。市民会館、音楽ホールを民間運営組織の参入により市民の利活用およびにぎわいの創出
- 夜間（大学院・語学塾・教養教室）の開催によるにぎわい創出

4 交通問題改善プロジェクト

<目的>

気軽に出かけられる交通網

<実施体制のイメージ>



- ※ i. 通常バス・・・小牧駅と各地域を直線的&病院・役所をシャトル運行（時短主眼）
☆市内各地域と小牧駅を放射線状の運行路線&病院市役所シャトルバス
- ii. 遊覧バス・・・小牧駅を起点、観光・レジャー感覚で史跡・名所等、市内遊覧
☆通常バスの放射線状運行の補完を兼ね、市内を外回り、内回りと環状する
- iii. 仮称「だれどこバス」・・・自由な乗降、自転車積込
☆自転車積込・（買い物荷物などの宅配支援検討？）
☆ワンコイン料金

●交通網の見直し

内容

- バス路線の見直し
- 矢印信号の設置による渋滞解消
- 歩道・自転車道の見直し
- デマンドバスの採用

市民の役割

- 小牧駅から市民病院・市役所への直通ミゴン
- 渋滞路線のリストアップ
- 歩道・自転車道の見直し

行政の役割

- 設立・運営の実施
- 交差点の改良工事実施
- 歩道・自転車道の設置

成果

バス利用の促進により、夜間の飲食等へのアクセス改善により、夜間にぎわいの創出が可能になり特に、飲食の営業に寄与できる。

すぐに行けること

●気軽に出かけられる交通網

内容

- バスの運行種類（A 通常バス B 遊覧環状バス C 仮称「だれどこバス」）※
- 利用状況など、定期的なモニタリングシステムの導入
- バスの運行の運営管理主体等を選定（NPO法人の設立、民間業者への運行委託方式（指定管理方式の検討など）、小牧商工会議所とのタイアップ）
- 道路網の更なる整備（幅員拡幅、バス優先路線の設定、歩車道区分の優先整備）

市民の役割

- ・自分たちのバスという感覚で、利用状況に対する意見・要望など町内会規模としてモニタリングに協力する（各地自治会&交通委員等）
- ・自転車積込者は、積込料金は別負担する
- ・市民は理解と協力を惜しまない

行政の役割

- ・バス運営管理主体への補助金の交付
- ・市内企業の通勤手段の公共交通切替調停（小牧駅・勤務先間送迎バスの充実）
- ・とにかくバス利用奨励策の考案推進。
- ・費用対効果を見ず、福祉政策的・環境的（感覚で取り組む街づくりの基本は、交通基盤の整備から）
- ・国交省の補助対象事業（コミュニティ道路・暮らしのゾーン）

成果

高齢者も出かける機会が増えて、少子高齢化という今後において、健康的で健全な市民社会が期待
自転車積込など市内遊覧バスの利用が拡大し、僻地の史跡・温泉等レジャースポット・青空市場なども、気軽に出かけられ、観光的にも活気付く
くらしの道ゾーンによって、市民の安全確保並びに生活環境の質が向上
工場通勤者のマイカー通勤減少化期待（環境面寄与）
地域コミュニティの更なる健全化が期待できる

次の取り組み

●トランジットモール（歩行者・自転車優先のまちづくり）

内容

- 自転車道・だれどこバス・一里塚の連結による中心市街地への乗り入れ禁止

市民の役割

- （空欄ボックス）
- （空欄ボックス）
- （空欄ボックス）

行政の役割

- （空欄ボックス）
- （空欄ボックス）
- （空欄ボックス）

成果

長期的な取り組み

地域力の活性化で安全・安心と環境を守るまちづくり

青山弘光、長田稔公、木戸人師、高井三郎、辻畑勲、鳥居由香里、西尾貞臣、丹羽富郎、安部美早恵、橋本典子、長谷川隆司

提案の背景や主旨、想いを文章で記入・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

・・

・・

・・

小牧市の安全・安心と環境をみると・・・

<p>【良いところ】 (第2回の意見より、プロジェクトに関連するものを中心に抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none">●●●●●●●	<p>【悪いところ】 (第2回の意見より、プロジェクトに関連するものを中心に抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none">●●●●●●●
--	--

【課題】

- ・ 自主防災活動の啓発
- ・ 市民の防犯組織拡充
- ・ 交通安全
- ・ 町内会活発化
- ・ ゴミの分別の更なる充実
- ・ 自然の保全
- ・ 農業の活性化 など

【プロジェクト】

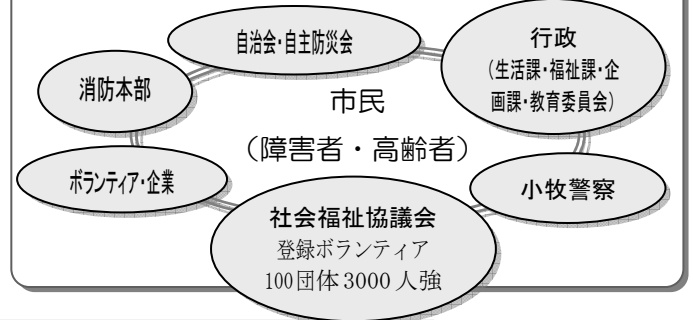
- ⑤だれもが安心して暮らせるまちづくりプロジェクト
- ⑥地域の立て直しプロジェクト
- ⑦環境を守る美しいまちづくりプロジェクト

5 だれもが安心して暮らせるまちづくりプロジェクト（防災、防犯、交通安全）

<目的>

子どもから高齢者まで市民だれもが安全で安心して暮らせるまちづくりを目指して、防災、防犯、地域福祉活動などを進め、明るい地域社会づくりに貢献することを目的とする。

<実施体制のイメージ>



●地域住民の“自助”意識を高める —自分でできることは自分です—

すぐに行えること

内容

- 地震発生シミュレーション（知識の取得）
- 耐震性に不安のある建物の検証
- 家具の転倒防止対策
- 非常持出品の確保
- 災害伝言ダイヤル171の周知

市民の役割

- ＜具体的なシミュレーション＞
知識を身につけるマニュアルの作成
勉強会、講習会の実施
- 耐震診断、家具固定、
施錠の励行(ワド・アッ・ロック)
火災報知器の設置
- 各家庭で万が一に備えて
話し合い、連絡方法・
避難場所の徹底

行政の役割

- 自治会の人材育成
取組状況の把握
- 消防本部による市民各
位の防災対策チェック
- 行政・災害ボランティアによる
市民に対する防災講習会・
会議を開く

成果

- 家庭内での対話が進み良好な相互信頼が高まる
- 家庭愛が深まり命の大切さを知り、協調性が向上する

●地域の“共助”意識を高める —日頃から地域で助け合う—

次の取り組み

内容

- 災害に備えて組織（自治会、自主防災会）で啓発活動を実施する
- 地域に根付いた地域ぐるみでの活動（自分の住むまちをみんなで見直す）

市民の役割

- 協議会に参画し諸行事（防災訓練、防犯パトロール、交通ボランティア）に進んで参加
- 災害弱者の実態把握
災害時要援護者支援制度の地域での展開
通学路の実態把握（危険箇所の点検、信号機の）
- 子ども、高齢者を巻き込んだ研修会
区長講話の実施

行政の役割

- 区、コミュニティに対し教育、指導、現状把握
広報活動（情報収集・提供）
- 集会施設の有効活用・提供
関連行政機関との調整
- 活動資金のバックアップ
防災・防犯・交通安全
教室の開催

成果

- 互助の協調性向上
- 一軒両隣付き合いが良くなり安心感の波及効果大
- 安全・安心なまちとなり地域力がつく

●公助・継続・定着

長期的な取り組み

内容

- 地域の防災・防犯・交通安全は息の長い活動
- 実施事項を継続して定着させる（本音の活動を定着させ継続して実施）
- 安心して歩くことができるまち（生活道路の整備・確保）

市民の役割

- 地域組織の強化、三世代での取組、継続的な活動（駅伝）などによる後継者育成、賢い市民
- 災害ボランティア・あいち防災リーダー会、防犯ボランティアの活動支援の定着化
- 危険箇所のリストアップ（車いすでも通れる歩道）

行政の役割

- 防災・防犯・交通安全活動支援（資金面）
- 制度化、仕組みづくり
企業との連携
近隣市町との連携
- AEDの設置
電気、電話線を地下埋設推進

成果

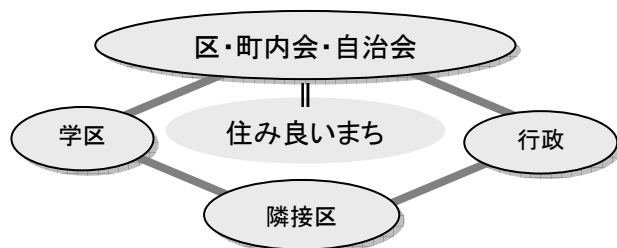
- だれもが（子どもから高齢者まで）まさしく安全・安心して暮らせるまちづくりとなる
- まちなみの景観がよくなる波及効果

6 地域の立て直しプロジェクト

<目的>

「住みよいまちは自分たちで創る」

<実施体制のイメージ>



●できるだけ多くの人に参加してもらう

すぐに取り組む

内容

- 町内会・自治会への加入率の向上
- 日常の活動を開示する
- 役員の業務と責務を明確にする
- 町内会・自治会に対する住民の意見の収集

市民の役割

- 町内会・自治会の必要性を認識する
- 活動の企画、報告回覧の実施
- 住民へのアンケートの実施及び公開

行政の役割

- 地域の生活は地域で守ることの重要性を啓蒙
- 行政,町内会・自治会の活動範囲を市民に啓蒙
- 原案等の指導、援助

成果

活動がわかってくる

●継続して参加できる環境をつくる

次の取り組み

内容

- 若い住民・外国人・新住民の参加
- 必要経費の支出
- 隣接区との横のつながり(学校単位)

市民の役割

- 活動の目的を明確に伝える慣例にとられない
- 会則、規定の確立
- 情報交換の場を設ける

行政の役割

- 通訳ボランティアの派遣
- 助成金の見直し
- 地域リーダーの育成・指導、場所の提供

成果

自主的に参加する人が増える

●いろいろな人に役割をもってもらおう

長期的な取り組み

内容

- 元気な高齢者・退職者を活用する
- 関連組織との連携
- 自主自立の地域コミュニティの確立

市民の役割

- 常設専門委員会の設置
- 情報の共有、連絡網の整備
- 協調のとれた明るい町内

行政の役割

- 専門的知識の指導、研修会の開催
- ネットワークの構築
- 住民参加の行政

成果

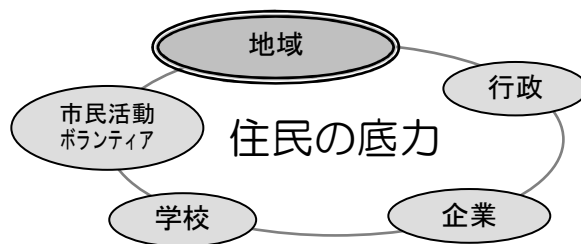
町内会・自治会が組織として確立する

7 環境を守る美しいまちづくりプロジェクト

<目的>

環境宣言にふさわしいまちづくり。
気持ちよく生活ができ、誇れるまち。

<実施体制のイメージ>



●みんなで美化活動

内容

- 徹底したゴミの分別
- 小学校、中学校「ゴミ教室」と地域指導（外国人指導）
- 地域の清掃活動

市民の役割

- ・正しい分別
- ・ゴミ集積所の清掃
- ・市民またはボランティア、市民活動団体が講師として協力
- ・地域の530運動（年2回）
- ・地域清掃隊（楽しいグループ）

行政の役割

- ・資源ゴミのPRと指導
- ・イベントでPRコーナー
- ・講師の派遣
- ・講座の企画
- ・国際交流協会で開催
- ・企業に協力要請
- ・こまき530運動の日の設定
- ・ポイ捨て運動のPR
- ・ゴミレンジャーズでPR

成果

- 地域内の美化
- 地域内の交流
- ゴミ分別知識の向上
- 子どもの育成

すぐに取り組み

●ゴミが資源になる

内容

- 新エネルギーの活用と省エネ、省ゴミ、非電化製品の普及
- まちのグリーン化
- 生ゴミの資源化促進

市民の役割

- 新エネルギー等の活用
- 地域清掃隊が清掃をかねて環境調査とPR（グリーンマップ）
- ・生ゴミをたい肥化して野菜づくり
- ・市民の講師協力

行政の役割

- 新エネルギー等のPRと補助
- PR（広報活動）
- 環境政策の作成
- ・休耕田の活用で市民農園
- ・市民への野菜づくり指導

成果

- 市の収入UPと税金減額化
- 農地の有効利用
- 市民の食育

次の取り組み

●持続可能な社会

内容

- ゴミのエネルギーシステムの構築
- 自然の保全
- 農業と里山の活性化

市民の役割

- バイオエネルギーの活用
- 里山手入れの手伝い
- 里山の工芸づくり
- 耕作者の募集

行政の役割

- バイオエネルギーの活用
- 企業への協力要請
- 収穫祭
- 里山文化の育成
- 農業の法人化、企業参入
- 自然の保全地域の指定

成果

- エネルギーの自給力
- 自然豊かなまち
- 食の自給力
- 災害防止
- 地域交流
- 人づくり

長期的な取り組み

文化・芸術の薫るまちづくり

加藤鐘三、柴田緑、園山忠、玉井宰、西山武、林岸子、堀孝次、吉田勉、瀧頭郎、吉田隆

提案の背景や主旨、想いを文章で記入・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

・・

・・

・・

小牧市の文化・芸術、多文化共生をみると・・・

【良いところ】

(第2回の意見より、プロジェクトに関連するものを中心に抜粋)

-
-
-
-
-
-

【悪いところ】

(第2回の意見より、プロジェクトに関連するものを中心に抜粋)

-
-
-
-
-
-

【課題】

- ・ 自然や史跡の活用
- ・ 施設の有効利用
- ・ 文化事業の浸透
- ・ 多文化共生に対する意識の高揚 など

【プロジェクト】

- ⑧それぞれの文化 さまざまな芸術を楽しむまちづくりプロジェクト
- ⑨「小牧は一つ 地球家族」と皆が思うまちづくりプロジェクト

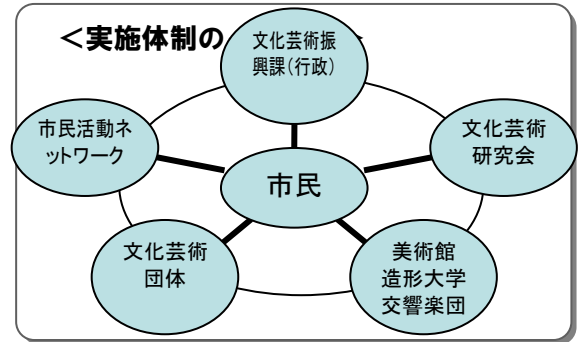
8 それぞれの文化 さまざまな芸術を楽しむ まちづくりプロジェクト

<目的>

市民一人一人が、それぞれの文化、さまざまな芸術を日常生活の中で楽しむことは、創造性をはぐくみ、相互に理解・尊重し合い、多様性を受け入れることのできる心豊かな社会に形成に貢献する。

文化芸術の振興は、小牧市の目指す「人と緑 かがやく創造のまち」「多文化共生社会の形成」の達成のベースとなる。

※関連団体は、メナード美術館・造形大学・中部フィルハーモニー交響楽団などの文化芸術関連団体を指します。



●既存団体の活性化を図ると共に、文化芸術に関する小牧の現状と課題を把握する

内容	市民の役割	行政の役割	成果
<ul style="list-style-type: none"> ○ 史跡・文化財、文化芸術団体の活動状況、関連団体※との連携について検証する ○ 既存の文化芸術団体の活動や交流を活発化し、新規の会員を増やす ○ 文化芸術活動に関わる施設を充実したり利用しやすくする 	<ul style="list-style-type: none"> 史跡・文化財の活用方法、関連団体との協働に関する提言、アンケートへの対応 文化芸術団体の積極的な活動と新会員勧誘、文化芸術団体交流会の実施 各施設について、利用者の立場として意見・要望などの提言 	<ul style="list-style-type: none"> 文化芸術振興状況に関する検討会・研究会・アンケートの企画と実施 既存の文化芸術団体の紹介とPRの支援、作品展やイベント開催の実施 市民ギャラリーの開設、既存施設利用方法の改善・改革 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既存文化芸術団体の活動状況や課題が把握できる 2. 史跡・文化財、関連団体連携について現状・課題が分かる 3. 既存の文化芸術団体の活動が充実する

すぐに取り組むこと

●既存団体の活動が盛んになり、新たな取り組みが始まる

内容	市民の役割	行政の役割	成果
<ul style="list-style-type: none"> ○ 各地域の埋もれた優れた文化芸術活動に注目し、支援する ○ 小牧の史跡、文化財、伝統芸能、自然等の活用に関する研究会を開催 ○ 関連団体（美術館・大学・交響楽団など）との協働による文化振興方策を検討する 	<ul style="list-style-type: none"> 地域独自の文化芸術イベントへの積極的な参加 小牧の史跡、文化財、自然等の活用に関する提言やイベントの模索 美術館・大学・交響楽団との協働による事業の提案と積極的参加 	<ul style="list-style-type: none"> 地域文化芸術活動に対する支援やPR、文化芸術振興条例の制定 小牧の史跡、文化財、自然等の活用に関する研究会の企画と実施 関連団体と市の双方にプラスとなる事業を推進する 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新たに文化芸術活動に参加する人が増えてくる 2. 小牧の文化芸術資源を活用した新たな活動が芽生える 3. 埋もれた地域の文化芸術活動にスポットが当てられる

次の取り組み

●小牧らしさのある文化芸術活動が盛んになり、市外からの参加者が増える

内容	市民の役割	行政の役割	成果
<ul style="list-style-type: none"> ○ 文化芸術を生活の一部として楽しむ市民が増える ○ 小牧独自のイベントや新しい文化芸術活動が活発となる 	<ul style="list-style-type: none"> 文化芸術施設の積極的な利用（発表会の実施）、発表会の鑑賞 市民主役のイベントの企画と開催 近隣から注目される小牧独自の文化芸術イベントの実行 	<ul style="list-style-type: none"> 個展会場、音楽専用ホールなどの文化芸術施設の充実 新たな文化芸術活動の支援をする 開催支援、告知支援 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小牧のまちづくりの各分野に大きな貢献をする 2. 近隣から文化芸術活動が活発な都市として認知される 3. 市民が自己実現を目指して生き生きとした暮らしをする

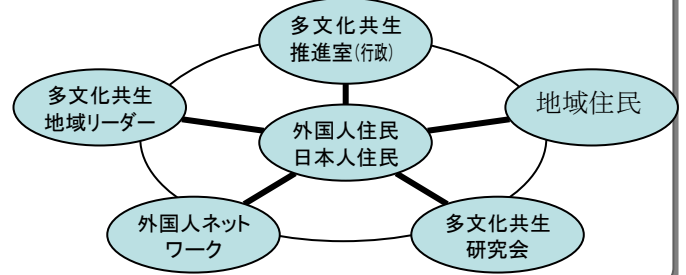
長期的な取り組み

9 「小牧は一つ 地球家族」と皆が思うまちづくりプロジェクト

<目的>

平成19年11月時点で、居住外国人が人口の6.0%を占める小牧市にとっては、多文化共生社会の形成が、今後の極めて有用な課題の一つである。日本人と外国人の垣根を取り除き、共に生きるパートナー、地球家族として、お互いに支え合う関係を築くことを目指した活動をする。

<実施体制のイメージ>



●みんなが「外国人が増える理由」や、「多文化共生社会」のことを知る

すぐできること

内容

- 居住外国人、多文化共生に関するセミナー・講演会を各地区での開催
- 地域の日本人と居住外国人とが接する機会を増やし、相互理解を推進する
- 地域との関わりや、地域貢献を願う人達（日本人と外国人）を支援する

市民の役割

- セミナー・講演会への参加、居住外国人に関する支援策・課題の提言
- 地域のイベントや既存の市民団体への積極的な勧誘、種々な情報の提供
- 既存の市民団体や地域グループなどによる活動紹介と勧誘

行政の役割

- 居住外国人・多文化共生に関するセミナー・講演会の企画と実施
- イベントへの参加促進の支援と、外国人向けの情報伝達手段の拡充、語学教室の支援
- 地域デビュー、地域貢献をテーマにした講演会や交流会の企画と実施

成果

1. 居住外国人や多文化共生社会のことを理解する市民が増える
2. お互いに関心を持つ住民が増える
3. 各地域に多文化共生リーダー候補が芽生える

●日本人と外国人の交流機会が増え、多文化共生社会への取り組みが決まる

次の取り組み

内容

- 市役所の多文化共生推進担当部門を充実する
- 多文化共生研究会（市・市民・企業）や、多文化共生リーダー会を
- 相互理解のための様々なイベントや交流会を開催する

市民の役割

- 外国人とともに現状の課題の提言
- 課題対応策の提言、実施計画の実行
- イベントや交流会を通じて、日本人と外国人の相互理解の深耕

行政の役割

- 多文化共生社会の形成に向けた方針や実施計画の立案
- 研究会・リーダー会の企画と実施、相談窓口やサポート体制の整備
- イベントや交流会の支援

成果

1. 多文化共生に関する課題・対策・推進体制が明確になり方針が決まる
2. 各地域に多文化共生リーダーができる
3. 多文化共生の理解が一層深まる

●住民・企業担当者・行政が一体となり「小牧は一つ 地球家族」を宣言する

長期的な取り組み

内容

- 外国人主催や、外国人にスポットを当てた各種イベントの実施
- 市内各地域の外国人代表者によるネットワーク（組織）を構築する
- 外国人にかかわる種々の環境の整備や施設の充実が図られる

市民の役割

- イベント開催への人的サポートと積極的参加
- 外国人組織構築への支援
- 労働環境、関連施設の検討と改善

行政の役割

- イベント開催へ資金的サポート
- ネットワーク（組織）づくりへの資金的サポート
- 多文化共生に関する条例の制定、多文化関連施設の整備

成果

1. 日本人も外国人も地域社会の構成員、共に生きるパートナーと思う人や家族同士交流する人が増える
2. 小牧が外国人が楽しく生き暮らせるまちになる

◆ “市民まちづくり研究会の提案”の実現に向けて…

わたしたち“市民まちづくり会議”からの提案は、これからの小牧市が「こんな市になったらいいなあ」という思いを描き、その実現のために何をすればよいかをとりまとめたものです。

提案には、すぐに取り組み始めることができるものから、じっくりと検討をしなければいけないものまで、さまざまなものがあります。

これから、市民と行政が協力し、できることから順に実行していきたいと思えます。

第7回市民まちづくり研究会の検討を
踏まえて作成します。

◆参考資料(開催経過)

回	開催時期	内 容	備 考
第1回	8月21日 (火)	<ul style="list-style-type: none"> ・ オリエンテーション ・ 小牧市のまちづくりを学ぶ ・ 小牧のまちづくりへの期待 	まちづくり研究会の目的の共有化 市民からみた小牧市の将来像を整理
運営委員会	8月31日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ・ まちづくり研究会の進め方について 	各グループより運営委員が出席し、今後の進め方について検討
第2回	9月13日 (木)	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループ検討テーマの確認 ・ 小牧市の良いところ・悪いところ 	グループ検討テーマ(対象分野)の確認 課題の共有化
第3回	10月3日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題解決のために取り組むべきアイデア 	課題解決のアイデア出し
第4回	10月17日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・ テーマ別プロジェクトの提案① 	プロジェクトの提案 <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民と行政が力を合わせて優先的に取り組むべきプロジェクトの設定 ・ プロジェクト内容の検討 ・ 市民の役割、行政の役割、連携方策の検討 ・ 成果目標の検討
第5回	11月5日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> ・ テーマ別プロジェクトの提案② 	
第6回	11月20日 (火)	<ul style="list-style-type: none"> ・ テーマ別プロジェクトの提案③ 	
第7回	12月3日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実現化方策の提案 	全体で実現化方策の検討
第8回	12月19日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 提案書のとりまとめ ・ 発表会準備 	提案書の完成
発表会	1月 日 ()	<ul style="list-style-type: none"> ・ 提案発表会 	公開での発表会 市長へ提言書の提出

新しい総合計画策定のための 市民まちづくり研究会

- まちづくり提案書 -

問合せ先

小牧市役所 企画部 企画課 企画政策係

〒485-8650 愛知県小牧市堀の内一丁目1番地

TEL (0568)76-1105(直通) FAX(0568)75-5714

E-mail kikakuka@city.komaki.lg.jp